

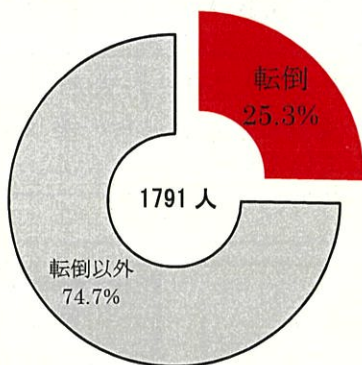


## 冬季間の転倒災害を防止するじゃねえかい!!

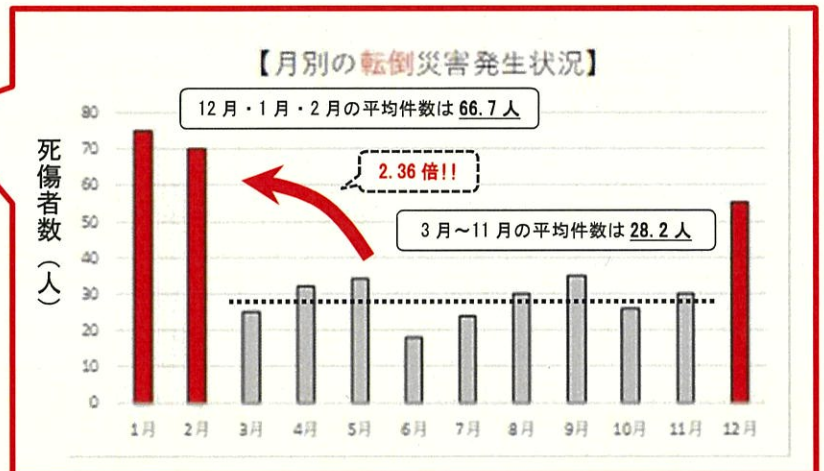
冬季特有の労働災害っていえば「転倒」災害だよね。

松本署管内でせ、過去5年間（平成26年～平成30年）に発生した休業4日以上労働災害の25.3%は「転倒災害」だだじ。特に12月から2月の寒い時期は、それ以外の時期に比べて2.36倍の発生率になるだよね。冬季間の「転倒災害」多発傾向がえらいことだっってわかるずらい。

過去5年間の労働災害発生状況



【転倒災害の割合】



## ◆出退勤時・駐車場等での転倒に注意しましょ!!

毎年さぶくなるとせ、何度気を付けるように頼んでも、すべての業種で出退勤時に凍結による転倒災害が多発するもんで、へえやあだくなるだよ。

駐車場や通用口付近等での転倒が特に目立ってるで、これらの場所は念入りに除雪しましょや。建物の陰になるような場所にある「シミやすい通路」とかには「ヒートマット（融雪マット）」ってのを設置することも効果的だだじ。

駐車場（自家用車）から事業場施設まで、ほんのちよびつとの距離を歩くだけだっつっても、滑りずれえ靴を履くようにしましょや。

朝早くとか、夜遅くとかは足元の状況が確認しづらくなるもんで、暗くて見えづれえ通路には照明を設置するとかせ、歩行者は首にかける懐中電灯を着用するってのもいいんじゃねえかい。

前でのほうがパッと明るくなって歩きやすくなるってもんだじ。

それとせ、まあず凍結や積雪がえらいけんまくで除雪が間に合わねえってところは、通行禁止（立ち入り禁止）にしてくりや。





# ◆凍結・積雪による転倒災害の傾向だじ!!

「配達作業」とか「送迎作業」とかの屋外型業務は、しっかり注意してやってくれや。

⇒自社敷地内ならともかく、配達先とかの客先に対して、「しっかり除雪しといてくれや、頼むでね」とか言いづれえじゃんかなあ。

だもんでせ、配達・送迎作業には「気を付けて歩く」よう指導することはもちろん、膝・肘パットを着用させて、転んでも大ケガしねえような対策も検討してみたらどうかや。

① 凍結路面では「50歳以上」の労働者がえらい転んでるだじ。

⇒凍結路面での転倒のうち6割は50歳以上の労働者が負傷したもんだでね。

年をとると、転んで手をついたときに「ポキッ」といっちまいやすくなるっちゆうもんでせ、転倒防止体操をしたり、手首にサポーターをはめたりするのもいいかもしんねえでね。

② 足元の冬支度は大丈夫かや?

⇒靴底が「溝が深くギザギザ状」になっている靴は、路面に対するグリップ力が強いもんで滑りにくくなるけどもせ、トレッキングシューズのような溝が深くても靴底の固い靴だと、逆に凍結路面で滑りやすくなる場合もあるだいね。

冬の靴選びは、溝の深さだけじゃなくって、柔らけえ靴底だつても重視しなけりゃいけねえでね。

最近じゃ、スタッドレスタイヤみてえに、ゴムに滑り止め材を混ぜた靴底もあるだじ。

⇒靴底に「ピン・金具」が付属している靴は、ツルツルの凍結面にもしっかりと突き刺さるもんで、安心して歩けるけどせえ、タイルや金属の床面だとツルッと滑っちゃったり、マットやカーペットだと金具がひっかかってつまずいたりするもんで、そういうとこじゃ、逆に注意しなけりゃいけんでね。

③ 外気温4度以下になったら、特に注意しましよ。

⇒気温が4度以下になると転倒災害発生リスクが急増するだいね。気温が「氷点下」にならなんでも滑りっ転ぶことが結構あるだじ。最低気温「4度以下」の日にはあ、転倒災害に特に注意しましよやい。

④ 転倒災害多発時間帯は「朝」と「夕方」だつてこっせ。

⇒転倒災害が最も多い時間帯は朝7時～9時。その次が夕方16時～18時だだじ。

⑤ 凍結路面の「ながら歩き」は絶対にやっちゃいけんに!!

⇒歩きながらスマートフォンを使うとか、いわゆる「ながら歩き」「歩きスマホ」は凍結・積雪路面上では絶対禁止だじ。足元や周囲の確認がおろそかになるし、転んだ時に咄嗟の対応ができねえでね。ポケットに手を入れたまま歩かずにすむよう手袋を着用するとかせ、手荷物で両手がふさがることのないようリュックサックを使用するとかせ、そういった基本事項の習慣づけも大切だじ。

⑥ ウォーミングアップで転倒防止。

⇒寒さで身体がこわばると転倒しやすくなるだいね。

作業前にはラジオ体操とかでせ、ウォーミングアップして「転倒防止」だじ!!

